

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01820

研究課題名（和文）若手外国人社員の視点を通じた日本型プロアクティブ行動の質的分析

研究課題名（英文）A Qualitative Analysis of Proactive Behavior through the Perspectives of Young Foreign Employees working in Japanese companies

研究代表者

鈴木 伸子（Suzuki, Nobuko）

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40507620

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、教師の自律的な成長のために使用されるティーチング・ポートフォリオから、キャリア・ポートフォリオ（CP）の開発を行った。研究開始時点のプロトタイプを用いたワークショップの開催を繰り返し、ポートフォリオの構造に修正を加えることができた。修正後のCPでは各自の過去の学業や行動結果に立脚した自分らしいキャリア形成について深く検討することが可能となり、ワークショップ参加者に対する有効性も確認できた。CPが完成したことにより、これを統合したキャリア教育のシラバス開発も最終段階に入った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究ではCPの開発がほぼ終了したが、本研究チームが最終目標としているのは、外国人社員と留学生の自律的なキャリア形成であり、それを実現する教育方法である。企業や大学などの組織を離れ、自らの過去を参照して、自らの歩む方向性を見出してキャリアを形成していく提案は、従来の外国人・留学生向けのキャリア支援とは異なる新たなアプローチである。今回の研究成果としてCPは完成段階に入ったが、次は、これを用いたキャリア教育のシラバス開発や教材開発とその普及という課題が残っている。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed a Career Portfolio (CP) from the teaching portfolios used for the autonomous growth of teachers. By repeatedly holding workshops using a prototype that was available at the start of the study, we were able to make structural modifications to the portfolio. The revised CP allowed for an in-depth examination of individual career formation based on each participant's past academic and behavioral outcomes, and its effectiveness for workshop participants was confirmed. With the completion of the CP, the development of a career education syllabus that integrates this portfolio has also reached its final stage.

研究分野：日本語教育、キャリア教育

キーワード：留学生の就職 日本語教育 キャリア教育 ポートフォリオ

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始以前、日本企業で働く外国人社員は、確実な増加・定着とは言えない状態ではあったが、元留学生の新卒社員で離職しなかった人々が中堅社員や管理職になり、海外大学から直接、就職する外国人社員も現れ、徐々に彼らの属性は多様化しつつあった。働く人が多様化すると、かつての日本企業のように、類似の人々に対して企業主導で一斉に同じようなキャリア形成を提供することは難しくなる。そこで、個々の外国人社員が自律的に成長するための育成ツール（キャリア・ポートフォリオ=以下 CP）を開発する必要性を指摘した。CPとは教師の自律的な成長のために使用されるティーチング・ポートフォリオを原型としたもので、キャリアのためのポートフォリオとして活用を目指したものである。研究開始時点にはプロトタイプ段階であったが、実際に用いて内省を行うワークショップの開催を繰り返し、ポートフォリオの構造に修正を加えることを目指した。

本研究が開発する CP を用いた内省が習慣化し、自律的にキャリア形成を検討できる外国人社員が増えれば、日本人社員向けの代用で問題視されてきた外国人社員向けの研修や外国人社員に特化した人事育成ノウハウは不要となる可能性があると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本企業で働く外国人社員の適応調査を行い、その知見とこれまで先行研究で得られた知見により、多様化した外国人社員の自律的な成長とキャリア形成を実現する人材育成ツール CP を開発することである。

この目的を達成するために、当初の計画においては、次の問いを設定した。(1)中堅外国人社員はどのように日本企業の管理職業務に適応するか。(2)海外大学出身の外国人社員はどのように日本企業での勤務に適応するか。(3)あらゆる外国人社員に有効な CP の内省項目とは何か。(1)と(2)はこれまでの日本企業にはいなかった外国人社員のグループである。ここに従来の、国内大学を卒業した元留学生の外国人社員の適応に関する先行研究の知見を加味することで、(3)の目的が達成されると予想した。

### 3. 研究の方法

申請時の計画では、若手から中堅へ移行する外国人社員グループ、及び海外大学から直接日本へ就職した外国人社員グループを対象に、インタビュー調査を行なって適応の実態を明らかにし、それを踏まえて CP 開発を行う予定であった。

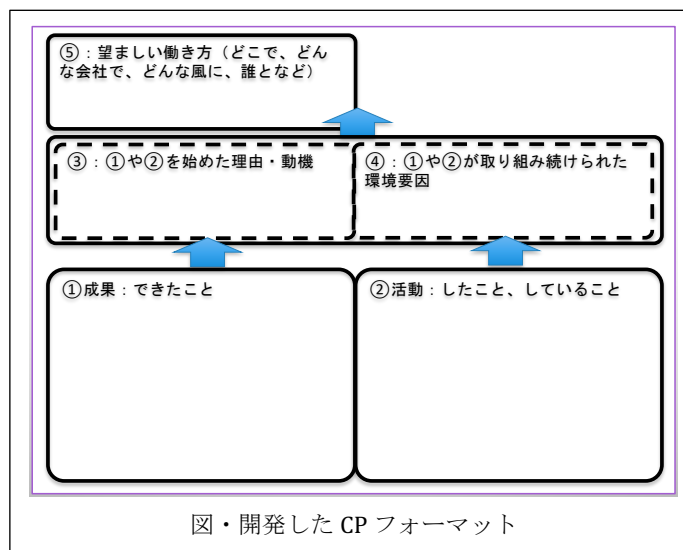
しかし、データ収集に着手した直後にコロナウイルスの世界的な大流行が発生し、本研究の研究協力者にも緊急帰国する者、離職や突然のリモートワークに対応を迫られる者などが現れ、それまでの職場環境・担当業務に大きな変化が生じたため、データの一貫性に齟齬が生じることとなり、当初の予定通りに彼らの日本企業への適応とキャリア形成の調査を継続することが困難となった。

そこで、外国人社員を対象とする研究計画を大きく変更し、企業に比べて対面に戻る動きが早かった国内大学で学ぶ留学生と、コロナ禍による影響が薄く、そのためオンライン授業の導入が不要だった台湾の大学生を対象に、CP ワークショップの受講生を対象にインタビューデータを収集して CP 開発を継続することとした。具体的には、CP を用いたワークショップで実際にキャリア形成を内省してもらい、後に完成した CP へのフォローアップインタビューを行うことを繰り返し、試用と修正を繰り返して開発に繋げることとした。

### 4. 研究成果

本科研の申請時点では、CP のプロトタイプと呼ぶべき開発段階にあったが、留学生に対する試用を繰り返してその度にポートフォリオの構造に修正を加えることができた。

最終年度には、CP の開発過程とその概要・具体的な利用方法と効果について、国際学会での口頭発表 (JSAA-ICNTJ 2023/豪州日本研究学会研究大会・国際繫生語大会) を行った。この成果発信に対して、学会参加者からは、日本人学生の初年度教育についての活用や技術研修生や特定技能など地方の日本語教室に集う外国人



図・開発した CP フォーマット

への応用可能性についての質疑があり、今後の開発の方向性について有益な示唆を得た。

更にその半年後には、完成した CP を用いた 2 日間の集中ワークショップを台湾・東海大学にて開催した。16 名の学部生が 2 日間の内省作業に取り組み、各自の過去の学業や行動結果に立脚した自分らしいキャリア形成について深く検討することができた。

結果として、留学生や海外大学生が日本での就労を視野に入れてキャリア形成のための内省を行う際のツールとして有効性があることを確認できた。今後は、この CP を用いたワークショップのノウハウや、このワークショップを統合したキャリア教育のシラバスを確立し、教科書の作成など具体的な教育方法として社会に発信するという目標に向かって研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>鈴木伸子  | 4. 巻<br>26           |
| 2. 論文標題<br>「雇用と人生を長期的視点で考えるための留学生向けキャリア教育 自律的にキャリアをつくる社会人を<br>目指して」 | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>留学生教育   | 6. 最初と最後の頁<br>91-100 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                                       | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                              | 国際共著<br>-            |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>鈴木伸子                                       | 4. 巻<br>120        |
| 2. 論文標題<br>日本企業に入社した外国人社員のキャリア形成ー30 歳前後のアジア出身者の事例からー | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>留学交流                                       | 6. 最初と最後の頁<br>1-10 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子  |
| 2. 発表標題<br>日本社会と日本企業 外国人が日本で暮らして働くときに経験すること  |
| 3. 学会等名<br>8th Leadership Program for Women in PEACE Project "Building career and strong Afghanistan community network in Japan" 20-21<br>January 2024 |
| 4. 発表年<br>2024年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子・トンプソン美恵子   |
| 2. 発表標題<br>留学生生活における活動の意味づけを促すキャリア教育の試み キャリアポートフォリオの開発と今後の活用に向けて - |
| 3. 学会等名<br>JSAA-ICNTJ2023（豪州日本研究学会研究大会 / 国際繫生語大会）（国際学会）            |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子                                |
| 2. 発表標題<br>「日本企業における働き方とジェンダー - 外国人社員の視点から - 」 |
| 3. 学会等名<br>タマサート大学大学院（招待講演）                    |
| 4. 発表年<br>2021年                                |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子                                       |
| 2. 発表標題<br>「日本企業における働き方とコミュニケーションの特徴 - 外国人社員の視点から - 」 |
| 3. 学会等名<br>タマサート大学大学院（招待講演）                           |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子                  |
| 2. 発表標題<br>日本企業とジェンダー：外国人社員の視点から |
| 3. 学会等名<br>東海大学（台湾）日本語文化学系（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2021年                  |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子                  |
| 2. 発表標題<br>日本企業が外国人の優秀人材に選ばれない理由 |
| 3. 学会等名<br>関西経済同友会（招待講演）         |
| 4. 発表年<br>2019年                  |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>鈴木伸子                  |
| 2. 発表標題<br>日本で働くのはいいことか          |
| 3. 学会等名<br>東海大学(台湾)日本語文化学系(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2020年                  |

〔図書〕 計2件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>池田玲子・館岡洋子・近藤彩・金孝卿(編)  | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>ココ出版  | 5. 総ページ数<br>368 |
| 3. 書名<br>協働が拓く多様な実践(pp.281-301, トンプソン美恵子「チーム・ティーチングにおける協働的内省-日本語教育実習生を対象としたKPTワークショップの試み-」) |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>鈴木伸子                                     | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>ココ出版                                     | 5. 総ページ数<br>280 |
| 3. 書名<br>日本企業に入社した外国人社員の葛藤-日本型雇用システムへの適応とキャリア形成の実際 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|                   | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------------------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究<br>分<br>担<br>者 | トンプソン 美恵子(平野美恵子)          | 東京大学・大学院総合文化研究科・准教授   |    |
|                   | (Thompson Mieko)          |                       |    |
|                   | (20401606)                | (12601)               |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

|  |                    |
|--|--------------------|
| 国際研究集会<br>東海大学文學院キャリア・ポートフォリオ作成ワークショップ | 開催年<br>2024年～2024年 |
|--|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|